能登香の里
あわい村
No. 107
発行
令和５年　３月１７日
粟井地区自治振興協議会
事務所：福祉センター
７６－０３３４
AWAIMURA.COM

粟井地区社会福祉協議会

■「第３回　福祉会議」粟井地区の福祉課題【二月二十三日】

◎二〇二五年を目標に改定が進む、美作市地域包括ケアシステムの中間報告を受け、意見を出し合いました。

◎粟井地区の福祉課題について協議しました。課題として

①粟井地区がますます高齢化してきた。

②色々なところで、担い手不足が現れてきている。

③全体的に、役員の選出が難しくなってきている。

④移動手段に困る人が増えてきている。

⑤近くで外食が出来なくなった。

⑥常会等、今まで出来ていたことでも、出来にくくなった。

これらの課題をもとに、課題解決に向けた具体的な活動も協議しました。来年度から取り組んでいきます。

作東地域自治振興協議会【三月十六日】

◎令和５年度作東地域自治振興協議会総会の議案検討をしました。

◎地区単位で行った「敬老祝賀会」の情報交換をしました。

◎社協の「地区、地域、市のケアシステム」について協議しました。

令和５年度を移行期間として各地区で取り組むこととしました。

◎愛育・栄養委員について、目的、活動内容、人数、名称等について、自治振でも今後２年間協議していくこととしました。

◎令和５年度「ふるさと祭り」をコンパクトな形で、文化協会とも連携して開催することとしました。

令和五年度　四月の行事予定

四月十四日（金）作東地域自治振興協議会総会　役員総会

十六日（日）粟井地区社会福祉協議会総会　役員総会

二十三日（日）粟井地区自治振興協議会総会　役員総会

三十日（日）粟井地区村創りの会総会　地区民全員対象

新規就農、粟井で暮らして10年

■みらい農園［桃栽培］

私、岩城 未來は、粟井に移り住み 十年目の年を迎えました。 谷あいの、里の景色は私の理性と感性を十分に満たしてくれる、言わば 理想郷。優しい陽光と淡く香る草花の春。命燃え尽きるまで謳歌する、旺盛な生き物たちの夏。落葉し、幾つかの実を遺し田に佇む、夕景の柿の木の秋。白銀の快晴、湯舟に浸かり聞く 雪解けの 調子良い雫のネの冬。

幼い頃から想い描いていた 折々の情景が、この粟井にはあります。桃農家として駆け出し早 十年。一年一作の桃を育てるのは子育てと同じ。先の年を考えながら、その年の作業を行い、そして 甘やかせば付け上がり、構わなければグレまくる。程よい加減で手を差し伸べ、見守ることの出来るような桃農家を目指し、前向きな自問自答を繰り返す日々でございます。

■こじま農園［ブドウ栽培］

小野に住んでいる小島です。２０１３年に大阪から越してきて、早くも10年になります。ぶどう農家で畑は田殿にあります。ぶどう作業は、４月の発芽から10月の収穫までが農繁期で、それ以外の期間は時間に余裕があり、朝夕はウオーキングを兼ねて犬の散歩をしています。（「あれは誰じゃあ？」と思っている人もいるかも知れませんが、怪しい者ではありません。）ぶどう農家になり９年目、ここでの生活も軌道に乗りつつあります。これからも宜しくお願いします。

粟井地区清掃活動【三月　五日】

粟井スポーツ振興会、粟井地区交通安全協会共催で、清掃活動を行いました。

内容は、地区境周辺及び街道沿いのゴミ・空き缶拾い、カーブミラー拭きなどでした。

美作市エゴマ生産部会・役員会【三月一日】

■講演会を開催します。

日時　令和五年三月二十六日（日）午前九時三十分～

場所　勝田市民センター

講師　美作大学栄養学科教授（医学博士）藤井わか子先生

参加費　５００円（資料代他）

参加者　エゴマに興味のある方、申し込み不要。

主催　美作市エゴマ生産部会

問い合わせ０９０２００６４６５７（東）まで

美作市エゴマ生産部会は、健康についてお互い学習し、楽しく幸せな生活を目指す活動を進めています。今回は、藤井教授をお招きし栄養と健康について、健康食品として人気の高いエゴマ油と食用油についての講演会です。皆さん、ご参加ください。

赤ちゃんが誕生しました。おめでとうございます。

［小房］

二宮貫太・公美夫妻に長男琥珀（こはく）君が誕生しました。

お子様の健やかな成長をお祈りします。

［鷺巣］

三木章裕・真菜美夫妻に長男綾真（りょうま）君が誕生しました。

お子様の健やかな成長をお祈りします。

粟井地区社協に寄付を頂きました。

小野の森本好昭様（亡　茂記）、小野の池田直美様（亡　國一）より、粟井地区社会福祉協議会に多額の寄付を頂きました。　ありがとうございました。粟井地区の福祉事業に大切に活用させて頂きます。

［編集後記］　久しぶりに、二人の赤ちゃん誕生の報告ができました。平成二十七年の粟井小学校閉校以来、粟井で子どもの姿を見ることも少なくなりました。10年前の心配が今現実となり、将来への不安がよぎります。これまでも移住定住促進など、絶え間なく取り組んできましたがまだまだ足りません。地域を守るためには、一層の工夫と努力が必要です。